

鳥取県きのこビジョンについて

平成26年3月18日
県産材・林産振興課

本年3月、生産者、関係団体、県等で構成する「やらいや緑の産業再生プロジェクトしいたけ部会」において、きのこ王国とっとりを目指した「鳥取県きのこビジョン」を作成しました。

《鳥取県きのこビジョンの骨子》

1 目指す「きのこ王国とっとり」



2 「きのこ王国とっとり」の実現のための2つの戦略

○戦略1 新たなきのこ産業の創出

- ①生薬きのこの安定生産技術の開発
→ ブクリョウ、チョレイマイタケ、コフキササルノコシカケ
- ②創薬向けきのこ品種の確定
→ レンチナン等の薬用成分が多いきのこの探求 ※レンチナン：抗がん剤による免疫低下を補うための薬剤に活用
- ③新たな食用きのこの生産技術の開発
→ 白色アラゲキクラゲ、無孢子性エリンギ、ウスヒラタケ

○戦略2 原木しいたけ115号のブランド化

- ①原木しいたけ115号のブランド化戦略の策定
 - 生産から販売までを計画的に行う体制の整備など
- ②原木確保体制の整備
 - 短期的かつ長期的な原木とほだ場の確保、クヌギ原木安定供給協定等によるクヌギ造林の推進及びクヌギ原木の安定確保など
- ③生産技術の向上
 - 発生ハウス・散水施設の導入等による品質向上及び単位収量の増加など
- ④生産者の確保・育成
 - 生産技術研修会の実施による新規生産者の参入増加及び生産拡大など
- ⑤消費者への販売促進の強化
 - 県内外（大消費地）におけるしいたけに対する消費嗜好調査の実施、県内の旅館・飲食店・業務用・学校給食をはじめとする県内外への販売促進活動など

3 「きのこ王国とっとり」の実現のための指標

項目	平成24年	平成30年	平成35年
① 新たなきのこに関する指標			
○新たな食用きのこの栽培実用化	—	3種類	(生産本格化)
○薬用きのこの生産実用化	—	3種類	(生産本格化)
②原木しいたけに関する指標			
○原木しいたけ生産量の増加			
原木生しいたけ	33 トン	91 トン	140 トン
原木乾しいたけ	133 トン (19 乾トン)	168 トン (24 乾トン)	203 トン (29 乾トン)
○しいたけの所得350万円以上の生産者数	非公開	5人	10人
○品質日本一を目指す	全農乾椎茸品評会上位入賞の継続		

《平成26年度の主な事業》

「きのこ王国とっとり」の実現に向けて以下の事業に取り組むこととしている。

事業名	概要	予算額(千円)
薬用きのこ栽培実用化推進事業	創薬や生薬に使われる薬用きのこの安定供給に向けた栽培技術の開発を委託する。	12,835
鳥取しいたけ115ブランド化推進事業	原木しいたけ115号を鳥取県産原木しいたけのリーディングブランドにする取組を支援する。 (ブランド化促進協議会(仮称)を設立予定)	62,000
原木しいたけ産地づくり支援事業	生産規模拡大や生産施設整備などの支援を行う。	9,733

<参考>

「やらいや緑の産業再生プロジェクトしいたけ部会」の構成機関(14機関)

全国農業協同組合連合会鳥取県本部、鳥取いなば農業協同組合、鳥取中央農業協同組合、鳥取西部農業協同組合、鳥取県椎茸生産組合連合会、鳥取地区椎茸組合連合会、八頭地区椎茸生産振興会、JA鳥取中央椎茸生産部、西部地区椎茸生産組合連合会、一般財団法人日本きのこセンター、菌興椎茸協同組合、鳥取県生活協同組合、鳥取市、鳥取県